

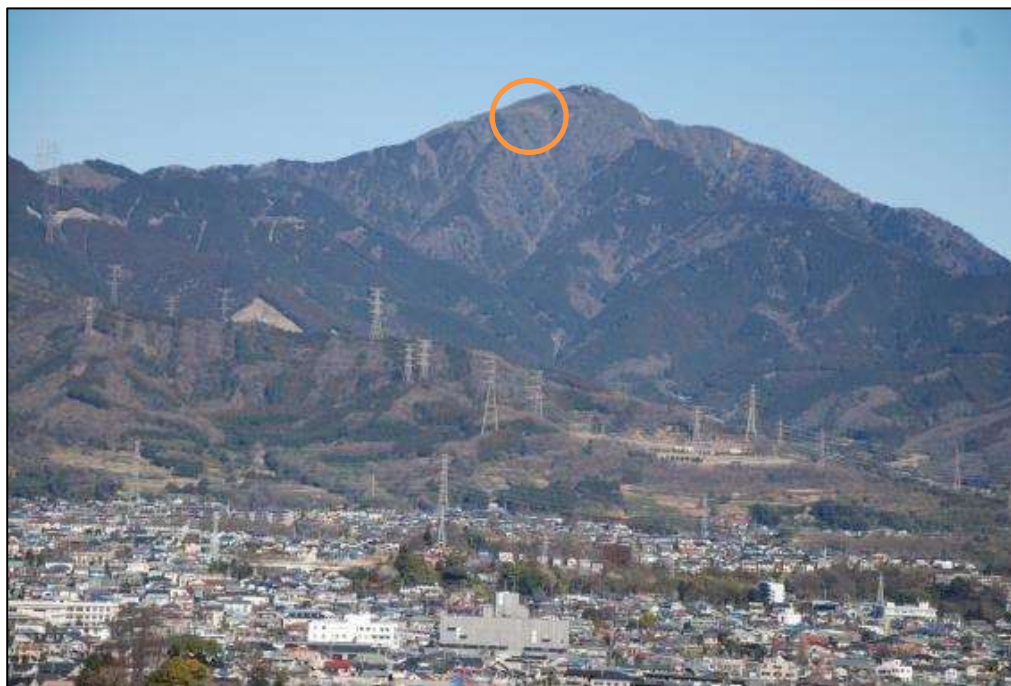
私たちの住んでいる平塚市寺田縄は人口2939人(2017. 1. 1現在)のまちです。周辺の環境は、市街地の北側には調整区域が広がり、水田地帯となっています。

水稲経営のためには、安定的な農業用水の確保が不可欠です。水田を満たす用水は、古来、金目川に100%依存してきました。

私たちの住む寺田縄の農家にとって、金目川の水は生活を支える「かなめ(要)」となっています。

金目川について、思いつくままのテーマでまとめます。その展開は、時間的・空間的にも一貫性を考慮することなく「そぞろ」に進めさせていただきます。

金目川の水源地域



秦野の渋沢丘陵から秦野盆地を隔てた「大山」の姿です。標高は、1252mあり、丹沢山塊の東端に位置しています。

昔、相模湾を航行する船舶や漁に出た漁船からは、その位置が標識の役割をしていたとも言われていたほどに、海上からは識別しやすいピラミット形の山容となっています。

正面の大山山頂を西に下った山腹に春嶽山と呼ぶ小陵、ここが金目川の水源地です。全長23.6km、相模湾に流入する「金目川」のスタート地点です。



金目川の水源

地図上では、二股に分岐。
標高、ほぼ600mに至る付近の
山腹に位置しています。



写真は、地図上の二股分岐の東側に位置します。

金目川の第一歩は、一滴一滴と、静かに湧き出るのではなく、写真のように山腹から勢いよく流れ出す、と表現される様です。

山腹の地下に水脈があるのでしょうか。突如、流れ出してきました。

ヤビツ峠を少し下り、富士見山荘の先には秦野名水に数えられる「護摩屋敷の湧水」があります。

標高600m程の高地には水脈があるに違いありません。

<余滴>

源流水はあまりにも清らかで、冷たく、下流部の大水田地帯に豊作をもたらしてくれること請け合いです。

たまたま、持参したペットボトルのお茶を流し捨て、新鮮な金目川の清水と交換、帰宅後の、水割りウィスキーは、実に美味かった。金目川を先取りし、飲み込みました。



流れ落ちる様子は、滝を連想させる豊かな水量です。



V字谷のはるか向こう遠くに伊豆半島。相模湾。渋沢丘陵。秦野市街地まで開けます。
足元には、流れに削られた浮石がいたるところ、踏み違えると谷に落ち込んでしまいそうな急な勾配地、春嶽沢と呼びます。

金目川河口部

金目川を渡る135号線、花水川橋から望みます。遠く、20数km先、金目川水源地の大山が見えます。手前の丘陵は、湘南平から続く高麗山。(箱根駅伝平塚中継所至近距離)

金目川の流れは、2kmほど上流で渋田川と合流し花水川と呼ばれ、水をたたえています。



花水橋から見た、相模湾への注ぎ口、河口です。水源地から流れ、多くの水を集めた金目川は、相模湾と結びます。そこは、春嶽沢の谷と違う姿、砂浜が広がります。

